地震に対する備えはできていますか？
～地震に対する10の備え～

近年、全国的に地震が多発しています。近い将来の発生の切迫性が指摘されている大規模地震である「南海トラフ大地震」について、「中央防災会議　防災対策実行会議　南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」が被害想定等を公表しました。この被害想定によると、町では震度５弱（東日本大震災と同程度）の地震が発生すると想定されており、本町においても、いつ何時大規模地震が発生するか予想できない状況となっています。

大規模地震が発生した際を想定し、次の10の備えを参考に、日頃からの備えをしておきましょう。

身の安全の備え

家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう

・けがをしたり、避難に支障がないように家具を配置しておく。
・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。

けがの防止対策をしておこう

・食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
・散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。

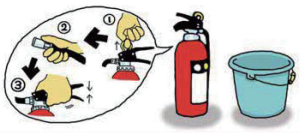
家屋や塀の強度を確認しておこう

・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておく。

初動対応の備え

消火の備えをしておこう

火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き（溺れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする）をしておく。



火災発生の早期発見と防止対策をしておこう

・火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
・普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく。
・電気に起因する火災の発生を抑制するため、感震ブレーカー（分電盤型）などの防災機器を設置しておく。

非常用品を備えておこう

・非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
・冬の寒さなど、季節を考慮した用品を備えておく。
・車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。
・スマートフォンの予備バッテリー（PSEマーク付）など、必要な電源を確保しておく。

確かな行動の備え

家族で話し合っておこう

・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
・外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
・台風等の風水害が同時期に発生した場合を想定しておく。
・普段のつき合いを大切にするなど、隣り近所との協力体制を話し合っておく。

地域の危険性を把握しておこう

・自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
・自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。

防災知識を身につけておこう

・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
・消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
・大きな地震の後に同程度の地震が発生する可能性があることを理解しておく。

防災行動力を高めておこう

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。

引用元：東京消防庁HP
「地震に対する10の備え」

防災行政無線テレホンサービス（自動音声応答装置）

0120-263208

上記の番号にお電話いただくと、防災行政無線の放送内容を音声メッセージで確認できます。
※通話料はかかりません。

「野木町消防団員」を募集しています！

入団資格

●町内に居住、または勤務する男女　●18歳以上の方

待遇

●年棒、退職金制度有　●その他、保険、研修等各種制度有

※詳しくは右記二次元バーコードより町HPをご覧ください。